

## 令和6年度 川崎市学習状況調査結果（速報版）

川崎市では、令和5年度から児童生徒が学習の取組を振り返り、課題を的確に把握し、学習改善に生かすことなどを目的に川崎市立小中学校の小学校4年生から中学校3年生までを対象として、新たに川崎市学習状況調査を開始しました。2年目となる令和6年度は4月に調査を実施し、この度、調査結果の概要をまとめました。この結果を踏まえ、GIGA端末の活用や各学校における研修の実施により、学習改善や授業改善に取り組んでまいります。

本調査結果の詳細については、川崎市教育委員会、川崎市立小学校長会、川崎市立中学校長会で分析した後、11月頃、川崎市総合教育センターのホームページに公表する予定です。

### 1 調査の概要

- 調査実施日 令和6年4月9日（火）～19日（金）期間内に各学校が設定
- 調査対象 小学4年生～中学3年生の6年間 毎年実施
- 調査内容 小学校：国語、算数、学習意識調査  
中学校：国語、社会、数学、理科、英語、学習意識調査

### 2 実施の状況

調査を実施した川崎市立学校は167校で、児童生徒合計63,067人が参加しました。

小学校		中学校		特別支援学校（小学部、中学部）		
114校		52校		1校		

  

小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
11,903人	11,616人	11,810人	9,419人	9,189人	9,130人	63,067人

### 3 調査問題と分析方法、本資料に掲載している調査結果について

- 調査問題 教科調査の問題につきましては、IRT（項目反応理論）に基づく問題となっており、毎年異なる問題ではありますが、同一学年の平均正答率が毎年同等となるように設計したものとなっています。
- 分析方法 川崎市内の受検者を、小は2教科、中は5教科の合計点で並べ、上位から25%ずつをA～D層の4層に分ける分析方法を使用しています。数値はA層～D層のそれぞれの平均正答率を示しています。
- 掲載している調査結果 教科調査につきましては、調査結果の各教科平均正答率、小学校は2教科、中学校は5教科の平均正答率、4層それぞれの平均正答率を掲載しています。意識調査につきましては、「授業の理解度」について、小学校は4教科（国語、社会、算数、理科）、中学校は5教科（国語、社会、数学、理科、英語）の肯定的な回答割合、4層それぞれの肯定的な回答割合を掲載しています。

#### 4 結果の概要

##### (1) 教科に関する結果の概要

ア 小学校教科（国語、算数）に関する調査の平均正答率（％）

学年	国語	算数	2教科 平均	2教科の4層分析の平均正答率			
				A層	B層	C層	D層
小4	67.1	71.5	69.3	91.7	79.4	66.3	39.6
小5	63.0	62.4	62.7	88.7	72.8	57.0	32.5
小6	64.9	58.1	61.5	88.5	71.2	54.7	31.7

イ 中学校教科（国語、社会、数学、理科、英語）に関する調査の平均正答率（％）

学年	国語	社会	数学	理科	英語	5教科 平均	5教科の4層分析の平均正答率			
							A層	B層	C層	D層
中1	62.3	49.2	65.8	58.1	89.8	65.0	86.2	72.7	60.7	40.2
中2	70.6	50.9	53.5	47.9	58.2	56.2	83.2	64.4	48.3	29.0
中3	71.1	53.3	47.1	51.6	65.5	57.7	84.6	67.8	50.5	28.0

##### (2) 学習についてのアンケート（一部）

ア あなたは、次の教科の授業が、どれくらいわかっていますか。（教科の理解度）

数値は肯定的な回答（「よくわかっている」「まあわかっている」）を合わせた値を表している。小学校は4教科（国語、社会、算数、理科）、中学校は5教科（国語、社会、数学、理科、英語）の平均値。

学年	肯定的な回答 割合(平均値)	4層分析の肯定的な回答割合			
		A層	B層	C層	D層
小4	85.4	94.7	89.7	84.4	72.5
小5	85.3	96.2	90.7	84.0	70.5
小6	83.9	96.0	90.3	81.7	67.7
中1	71.7	89.9	77.9	67.8	50.5
中2	66.0	90.1	75.5	59.3	39.7
中3	65.9	90.5	77.2	59.7	36.9

問合せ先

川崎市教育委員会事務局総合教育センター

カリキュラムセンター みやじま うのき 宮嶋・鶴木

電話044-844-3720



## 調査結果を生かした今後の取組

### 児童生徒は次のような取組を進めます

#### ○自分自身の課題等の把握

児童生徒は、自身の調査結果が記載されている「個人票」を基に、保護者とともに学習を振り返り、自分自身の「苦手なところ」や「さらにながめたいところ」等を把握します。

#### ○GIGA端末を活用した取組

個人票には二次元コードが記載されています。GIGA端末で読み込むと、GIGA端末内の学習ソフトと連携して、一人ひとりの実態に応じた問題が自動生成されます。児童生徒は、生成された問題に取り組むことで、「苦手な部分の克服」や「身につけているか不安に感じている学習内容の確認」等につなげることができます。

#### ○児童生徒自らの継続した取組

児童生徒は、自ら自分自身の課題を把握し、日々の学習に取り組んだり、GIGA端末の学習ソフトを活用したりしながら、継続して自らの課題の克服等に取り組んでいきます。

### 各学校は次のような取組を進めます

#### ○授業改善等に向けた研修（8月）

経年変化を含めた調査結果から、学校全体としてどのような取組を重視するのか、各教科等の指導において、学年や学級でどのような手立てを行うか等について校内で話し合い、授業をよりよくするための手立てや、児童生徒の実態に応じた支援の手立てについて考えます。

#### ○学校報告書の作成と配布（前期終了までに）

各学校は、受検した学年の調査結果や今後の取組等を記載した学校報告書を作成して配布します。

#### ○夏季休業後の取組

7～8月の研修を生かして、日々の授業改善や児童生徒の支援に取り組めます。また、秋には市内全小中学校の担当者が参加する説明会にて、全市の調査結果を踏まえた授業改善の手立てや、各学校の取組等の情報共有を行います。各研修、説明会を生かして授業改善等に取り組めます。

#### ○年度末の取組

各学校は、年度末に今年度の取組を振り返り、次年度以降の取組について検討します。

### 総合教育センターは次のような教職員向けの研修・説明会を行います

#### ○結果を分析するための研修（7月）

調査結果の分析の仕方、データの読み取り方や扱い方等について研修します。

#### ○秋の担当者説明会（9月）

校長会と教育委員会が行う全市の調査結果の教科ごとの分析などについて、分析内容と授業改善の手立てを説明します。また、各学校の調査時の取組事例や、授業改善の取組事例の情報交換等を行います。

#### ○年度末研修（3月）

今年度の取組を振り返り、次年度の取組に向けた情報提供等を行います。